利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272200288			
法人名	医療法人慶成会			
事業所名	グループホームいわき			
所在地 〒036-1325 青森県弘前市大字一町田字村元711番地3				
自己評価作成日	令和3年8月1日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

	評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会						
所在地 〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階								
	訪問調査日							

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岩木山を背に広大な自然に囲まれた環境の下、家庭的な雰囲気の中で一人一人の心身の状態に合わせたケアを行い、安心できる日常生活を送ることができる様に支援します。又、地域密着型という特性を生かし住み慣れた地域で今迄と変わりなく地域の行事に参加しながら地域住民との交流も大切に楽しみの有る日々を過ごして頂きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに○印 ↓該当するものに〇印 1. ほぼ全ての利用者の 1. ほぼ全ての家族と 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 2. 利用者の2/3くらいの めていることをよく聴いており、信頼関係ができ 2. 家族の2/3くらいと 56 を掴んでいる 3. 利用者の1/3くらいの ている 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9.10.19) 4. ほとんどできていない 1. 毎日ある 1. ほぼ毎日のように 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある \circ 2. 数日に1回程度 57 がある 64 域の人々が訪ねて来ている 3. たまにある 3. たまに (参考項目:18.38) (参考項目: 2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない | 1. ほぼ全ての利用者が 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 1. 大いに増えている 係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事 2. 少しずつ増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 2. 利用者の2/3くらいが (参考項目:38) 3. 利用者の1/3くらいが 業所の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない (参考項目:4) 4. ほとんどいない 4. 全くいない | 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした 2. 利用者の2/3くらいが 2. 職員の2/3くらいが |職員は、活き活きと働けている 59 表情や姿がみられている 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11.12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない | 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 60 る 67 足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:49) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスに 2. 利用者の2/3くらいが 2. 家族等の2/3くらいが 61 く過ごせている 68 おおむね満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30.31) 4. ほとんどいない 4. ほとんどできていない 1. ほぼ全ての利用者が

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

盲	1 外		自己評価	外部評価	# 1
岂	部	項 目	実践状況	実践状況	ッ 次のステップに向けて期待したい内容
		こ基づく運営	人成化加	关战状况	次のパグラグに同じて別付したので
1		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	理念の共有に努める為、朝の申し送り時に は、唱和し実践につなげる努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	ルス予防の観点から控えている現状が有 る。		
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議やいわき夏祭りなど行事の時には、認知症の理解の為、地域の老人クラブなどに参加を呼びかけていたが現在は、新型コロナウイルス予防の観点から控えている。		
4	(3)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	昨年度より新型コロナウイルス予防の観点 から運営推進会議は、行われていない。		
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度は「身体拘束廃止委員会」を行い職員の周知に努めている。又、内部研修行いながら報告書の提出も行っている。		
7			新型コロナウイルス予防の観点から外部研修への参加や計画ができない為、内部研修 を計画している。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	五
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	修の参加や計画ができず見通しが付かない		
9		家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行	入居前に見学に来ていただき、管理者より 説明を行っており、ご家族や入居者様の疑 問点に対応できるようにしている。		
10		〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並 びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に 反映させている	支払日には、無理のない来設での支払いを お願いをしている。その際に、ご家族様の要 望や意見を尋ねるようにし話やすい雰囲気 作りを心掛けている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	新型コロナウイルス予防の観点から全員参加での会議を開催することができ無い為、 会議前に全職員に議題の提供や意見を求めている。		
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	代表者は、給料日の出勤職員に対し個々と の会話を行いコミュニケーションを図るととも に意見を尋ねている。		
13		の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	代表者より全面的に外部研修への参加費用の提供が行われていたが、新型コロナウイルス予防の観点から職員自身が集団での研修に参加することを否としている。その為、内部研修での取り組みをしている。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	新型コロナウイルス予防の観点から行われ ていない。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	ш
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		いる	基本調査をもとにご本人様との面談を行い 不安に思うことなどの把握に努めています。 又、それらをサービス計画に反映させるよう 考慮しています。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	基本情報をもとにご家族様には、見学に来 ていただき現状の把握と思いを傾聴しなが ら関係作りや信頼に結びつけることができる ように努めています。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	新型コロナウイルス予防の観点から施設内での面会は行われていないが、受診支援を希望されるご家族様には、その要望に応えている。又、アセスメントを利用し課題の検討を行っている。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に台所仕事や軽作業を行うなど 残存機能の維持、及び信頼関係の構築に 努めている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	コロナ禍に於いてご家族様とご本人様の交流は、ガラス越しや電話にて行われている。 担当職員からは、毎月の状況報告が、コメントとして入ります。		
20		〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご本人様が通院していた病院は、 入居後もそのまま受診できるように支援しお り受診時に懐かしい人に逢って喜んでいる 方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	毎日の軽作業を一緒に行い、気の合う入居 者様同士、入浴の順番を考慮したり余暇活 動の時間を利用して交流が深まるように橋 渡しを行っている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	T
自己	部	惧 日 	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその後の経過を確認した り相談のために声掛けをしてもらえる様に連 絡を行っています。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	-		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の生活状況、生活歴を参考にご本人様 及びご家族様からの聞き取りを行い相談し ながら生活に反映させている。又、日々の 生活の中で時々、意向の確認を行ってい る。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報やご本人様、ご家族様と の面談に於いて聞き取りしたことでご本人様 の思いの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態を観察し、ご本人様の 「出来ること」を見つけ出し提供できるように 努めている。		
26	,,,,,	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月のユニット会議では、職員からの意見を文章で求め担当職員が不在でも個々のケアカンファレンスとして生かしている。又、それを元に介護計画を作成している。		
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の取り組みや結果を介護日誌に記入しながら変化や変更のあった時には、申し送 り簿に記入し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意見を尊重しながら ニーズに対応できるよう例えば、馴染みの 美容院を希望の時には、送り迎えをするな ど柔軟に対応している。		

自	外		自己評価	外部評価	T
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、新型コロナウイルス予防の観点から行われていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医の受診を継続すると共に報告、連絡、相談を大切に信頼関係の構築に努めている。又、急変時の受診体制も整っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に 伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看 護を受けられるように支援している	職員一人一人が、入居者の状態把握に努め、細かな異変を見逃さないように観察、情報共有に努めかかりつけ医の元に相談を行い支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 また、できるだけ早期に退院できるように、病院関 係者との情報交換や相談に努めている。あるい は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ くりを行っている。	医療機関には、情報の提供を行っている。 又、地域連携室やソーシャルワーカーとの 情報交換を密に行いそれをご家族様との今 後の相談に生かしている。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取組んでい る	入所時には、事業所の方針を明確に提示しており機能低下や状態の悪化が確認された時には、ご家族様と相談し他施設への待機者登録をするなどの対応を行っている。		
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含め急変時や事故の発生に 備えた対応も全職員が把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含め年2回以上の避難訓練を実施し全職員が、迅速に対応できるように日々話をしている。非常食や懐中電灯、灯油ストーブ、ラジオの備えも把握している。非常食は、約3日程分を備えている。		

自	外項目		自己評価	外部評価	5
自己			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
			訪室の際には、ノックを行いプライバシーに 配慮している。時間でのトイレ誘導を行って いる入居者様には、声のトーンを下げて目 線を合わせながら声がけ対応を行ってい る。		
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	入浴後の衣服準備を1人で行えない方には、訪室し必要な物品の提示を行いゆっくりと準備をして頂くように努めている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴後の衣服の準備は、入居者様1人1人 に合わせて前日に準備する人、当日に準備 する人など職員ベースではなく入居者様 ベースとしている。		
39			受診時などには、利用者様の洋服選びに相 談に乗り季節にあった服やバッグ、巾着など をアドバイスしている。		
40	(/	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえを一緒に行ったり、食器拭きは、その日の心身の状況を判断しながら交代で行っている。又、嫌いな食品や禁止食品に関しては情報共有に努め提供している。		
41		応じた支援をしている	1人1人の状態の把握に努め、体重管理の 指示が出た入居者様は、提供する食事量を 工夫をしている。又、食事摂取量の少ない 入居者様には、主治医への情報提供を行い 指示を仰いでいる。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	各々の能力に合わせた声がけをする。自力で行える人、洗面台に誘導することで行える人、義歯を外せる人、うがいが行える人などその人に合わせた洗浄としている。出来ないところは一部介助を行っている。		

自	外	** D	自己評価	外部評価	T
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意の訴えの無い方は、時間誘導を行い夜間も排泄のパターンを確認しながらオムツの使用にすることなくトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取組んでいる	排便ナエツク表の活用と職員からの申し送り により各々に合わせた下剤服用の対応。水 分補給の充実、軽体操への参加、廊下での 歩行運動、腹部マッサージを行っている。ま た、主治医への相談を行い指示を受けてい る。		
45	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回のユニット毎の入浴だが、受診日と重なった時や都合の合わない時には、ユニットを超えての入浴としたり気の合う入居者様と一緒の入浴とするなど臨機応変としている。		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣や状態を把握し午睡の時間や入眠時の時刻を工夫、声がけすることによって夜間の良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	各々の服薬状況は、基本情報台帳に1年分を綴込みしており常に職員が閲覧できるようにしている。受診時に変更の指示が出た薬に関しては、各受診記録に記入するとともに申し送り帳に記入するようにしている。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、本人の趣味や能力を生かせるよう に日常生活に工夫をし例えば、生活歴に和裁の ある方には、雑巾を縫っていただいたり洋裁のあ る方には、外れたボタン付けをしていただいてい る。ドライブの好きな方は、一緒に出掛けてい る。		
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナウイルス予防の観点から 自粛をお願いしている現状にあるが、どうし てもという方には、ご家族様とも相談し支援 に努めている。例えば美容院でパーマをか けたいという希望を叶える事に至った経緯も ある。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
그	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の状態やご家族様のご希望により 所持している方もいますが、現在は、新型コロナウイルス予防の観点からご本人様の外 出までは至っていません。お預かりしている お小遣いからの購入となっています。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	外線での電話連絡には、取次ぎを行っている。又、当施設からの事務連絡時には、ご本人様との会話を行っていただけるように声がけを行っています。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余暇活動で作成した絵(花、生き物、ねぷた、折り紙、下がり物)や作品を各々の氏名を記入していただきサロンや廊下、居室に展示をして足を留めて頂けるよう工夫をしている。テレビやビデオは、各サロンに配置しユニットを超えて見る事が出来るように声がけを行っています。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	サロンのソファーは、各々が好きな位置に好きな時間に座り過ごされている。又、本や新聞も各々が手に取れるようにしている。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	てくれた写真は、ベット上にアルバムなどにして		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	自室入口には、氏名を掲示しトイレには「トイレ」「便所」と2通りで表示するなど混乱を防いでいます。施設内には、手すりの設置を行い手引き歩行の緩和や歩行時の安心ににつなげています。		